

人と魚と海のネットワーク
香川県漁連ホームページ
<http://www.jf-net.ne.jp/kagyoren/>



JF
香川漁連

高松市北浜町8-25
TEL 087-825-0350
FAX 087-851-0699

第49回放魚祭 庵治で開催

7月24日（火）午前10時より、県民に広く稚魚愛護と水産資源保護の普及高揚を図ることを目的とした、第49回放魚祭（主催：（一社）香川県水産振興協会、香川県東部漁業協同組合連合会、香川県漁業協同組合連合会、香川県信用漁業協同組合連合会、（公財）香川県水産振興基金、協賛：香川県、高松市、さぬき市、東かがわ市）が高松市役所庵治支所、庵治漁港王の下埋め立て地及び庵治観光ホテルにおいて開催され、西原副知事、花崎県会議長ほか水産関係者約80名が出席し、炎天下の中、式典や稚魚の放流などが盛大に執り行われました。

式典は高松市役所庵治支所で執り行われ、厳かな神事のあと主催者を代表して嶋野会長から「稚魚愛護と水産資源保護の精神を、当地庵治から全国に発信するとともに、こうした積み重ねがより大きな輪となり、豊かな瀬戸内海を蘇えらせることを願ってやみません。」と挨拶がありました。また、来賓を代表して西原副知事他2名からご祝辞をいただき、続いて香川県立多度津高校海洋生産科の生徒6名に放流稚魚のお手渡しが行われました。

放流会場の庵治漁港王の下埋め立て地には大漁旗、国旗で色鮮やかに装飾された地元漁船9隻と多度津高校の実習船「たどつ」、県有船「やくり」が集結し、会場内もたくさんの大漁旗で彩られました。稚魚の放流に先立ち、高松市立庵治小学校の26名を対象に水産教室が実施され、児童たちは地元の魚や海について学習し、また漁船の見学に加え、放流する稚魚にも触れることができ児童たちは大喜びの様子でした。



幼稚園児たちと稚魚の放流

その後、主催者、来賓および高松市立庵治こども園の児童が高松市議会大山副議長の合図で稚魚の放流を行いました。この日放流された稚魚はメバル2,500尾、マダイ・ヒラメ各3,000尾及びタケノコメバル2,400尾で、これからの豊漁を祈願して庵治漁港に放流されました。放流終了後、高松市、さぬき市内3漁協の漁船9隻が出席者に見送られながら順次出港。地元地先に帰り、稚魚の放流を行いました。また、放魚祭の一環として5月にヒラメ約25,000尾を放流しています。

地元高松市、東かがわ市、さぬき市及び健全な種苗を提供していただいた香川県、そして漁業者の皆さん他、関係者各位の協力を得て放魚祭は盛況のうちに無事閉会しました。来年度第50回放魚祭は、高松地区において開催予定です。



多度津町漁協新事務所披露

7月10日（火）多度津町漁業協同組合の新しい事務所が完成し、新事務所落成式が開催されました。落成式では志摩代表理事組合長を始め、関係者によるテープカットが行われ、その後、オークラホテル丸亀にて祝賀会が盛大に行われました。



落成式でのテープカットの様子

三木組合長 旭日単光章受章



み き まさゆき
三木 正幸

池田漁業協同組合
代表理事組合長

4月29日（日）、平成30年春の叙勲受章者が発表されました。県下水産関係者では、池田漁業協同組合 三木正幸代表理事組合長が永年に亘る水産業振興に貢献された功績により、旭日単光章を受章され、受章記念祝賀会が7月8日（日）小豆島国際ホテルにおいて盛大に行われました。

三木組合長は、昭和59年に池田漁業協同組合の理事に就任、平成6年から代表理事組合長に就任し、約34年間、漁協の行う各事業の堅実な運営を図られてきました。現在は建網漁業、なまこ漕ぎ網漁業などの漁船漁業に従事され、所属漁協の模範となっています。漁協経営においては、いち早く販売事業の強化に取り組みられ、学校給食への食材提供や、地元鮮魚とオリーブオイルを使用した新商品を開発し首都圏への販路拡大を行いました。また、「池田屋」のブランド名で、オリーブ海苔・オリーブ揚げチリメン等の販売も手掛け、事業収入の飛躍的な増加を成し遂げました。

さらに、平成11年から香川県信用漁業協同組合連合会の監事に就任、平成14年から代表監事となり、同連合会の円滑な運営にも貢献されています。

新しい組合長紹介

（敬称略）

引田漁業協同組合

新任 網本昌登氏
（平成30年6月19日）

退任 梶谷陽一氏

東讃漁業協同組合

新任 笠井正人氏
（平成30年6月18日）

退任 松村正彦氏



与島漁業協同組合

新任 岩中高夫氏
（平成30年7月7日）



久保与島漁協組合長ご逝去

去る6月28日（木）久保義夫与島漁業協同組合代表理事組合長（63歳）が、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

決定「香川おさかな大使」

香川県産水産物のPR活動をする「香川おさかな大使」の最終審査会が7月4日（水）漁連会館5階中会議室にて行われました。

今年で10回目を迎える「香川おさかな大使」は、さぬき海の幸販売促進事業の一環として募集したもので、活動期間は7月4日から来年3月までとなっています。

書類審査を通過した8名を嶋野会長ら6名の審査員が面接などで審査を行い、積極性や明朗性、豊かな表現力、熱意を持つ三木香菜子さん（高松市、大学生）、嶋津菜摘さん（高松市、会社員）、富田麻友さん（高松市、会社員）の3名が選ばれました。

三木さんは「子供からお年寄りの方まで幅広い世代の方に香川県水産物のおいしさを届けたい」、嶋津さんは「フレッシュな笑顔で元気いっぱい活動したい」、富田さんは「国内だけでなく、海外までオリーブハマチや県産水産物をPRしていきたい」と抱負を語ってくれました。



（左から）三木さん、嶋津さん、富田さん